

## 創刊の辞

国際的緊張が多く民族に悲劇と不幸をもたらし、見解を異にするものの対立と抗争が社会の混乱を惹起することは、時代を問わず人間の歴史にみられる事象である。これは、自己の立場のみを主張して、相手の意見を理解しようとしないうる不寛容性に由来するものと思われる。従って、先ず現代日本の社会に真の平和の理念を確立することが緊要であろう。

法華経は、インド・中国・日本にわたって伝播し、それぞれの文化の形成に多大の影響を与えて来た。しかも、法華経がこれらの異質的な環境に受容されてその思想文化を発展せしめたのは、偏に法華経の「開會」の精神に基づくものである。法華経が過去の歴史において果たした役割は極めて大であるが、今後も法華経を心の糧とするものの一一致協力によって、この真精神が開顕されるならば、必ずや人間生活に正しい進路を示し、世界の平和に確乎たる理念と支柱を与えるものと確信する。

法華経の伝播した地域は広汎であり、交渉をもった社会と歴史との関係も亦、複雑多岐に亘ったため、培われた精神文化の特質は種々異った様相を呈した。従って、法華経の学的研究は、従来も幾多の学者によってなされたにも拘わらず、未だその成果を十分に發揮しない現状にある。このため、法華経及びその文化に対する客観的且つ総合的研究の必要が痛感された。

この点に鑑みて、故坂本幸男教授によって立正大学に「法華経文化研究所」が設立されたのは昭和四十一年六月一日であった。爾来九年、資料を汎く世界に蒐集して、その整理を行ない、普ねく研究者の便益に資すると共に、また有機的な研究機構を確立して研究の助長を計って来た。これまで当研究所の所員を中心と

した研究者のグループによって、

- 坂本幸男編「法華経の思想と文化」法華経研究Ⅰ（平楽寺書店、昭和三九・三）
  - 望月敏厚編「近代日本の法華仏教」法華経研究Ⅱ（平楽寺書店、昭和四三・三）
  - 金倉圓照編「法華経の成立と展開」法華経研究Ⅲ（平楽寺書店、昭和四五・三）
  - 坂本幸男編「法華経の中国的展開」法華経研究Ⅳ（平楽寺書店、昭和四七・三）
  - 影山堯雄編「中世法華仏教の展開」法華経研究Ⅴ（平楽寺書店、昭和四九・一二）
  - 野村耀昌編「法華経信仰の諸形態」法華経研究Ⅵ（平楽寺書店、昭和五一・三予定）
- の総合研究の成果が公刊されて来た。

また、当研究所の事業として、松濤誠廉教授を主任とする「法華経梵文ネパール本研究会」と、野村耀昌教授を主任とする「正法華経研究会」が進められている。この研究成果は、近い将来に公刊の予定であるが、右の他に個々の研究も進捗し、その成果を公刊する必要があるが生じた。よって、当研究所でこれまで出版してきた「法華文化」(Nos. 1—28)〔主として蒐集した資料の紹介を目的とした〕を廃して、新たに「法華文化研究」(年報)を創刊することになった。

ここに、当研究所に支援を惜まれなかった有志の方々に感謝の意を表するとともに、この出版を通して、學術の進歩発展に寄与し、併せて法華経の精神を内外に顕揚し、もって世界の文化と平和に貢献せんと念願するものである。

昭和五十年三月

立正大学法華経文化研究所

所長 中村瑞隆